

救急安心センターひょうご（＃7119）の 初年度の運用状況と利用の呼びかけ

1. 救急安心センター事業（＃7119）とは

消防と医療が連携し、急な病気やケガの際に、看護師等の専門家が救急車を呼ぶべきかどうかなどの**救急医療相談**や**医療機関案内**を行う**電話相談事業**を令和7年7月から全県で展開

2. 初年度（令和7年度）の実績

① 16万7,420件の相談に対応

※ 救急医療相談

看護師等が相談者の状況を聞き取り、「緊急性」や「病院を受診する必要性」等を判断・助言

○R6年度：神戸市、姫路市、芦屋市の先行実施分

○同一時期（7月11日～3月31日）で比較

[＃7119相談件数（件）]

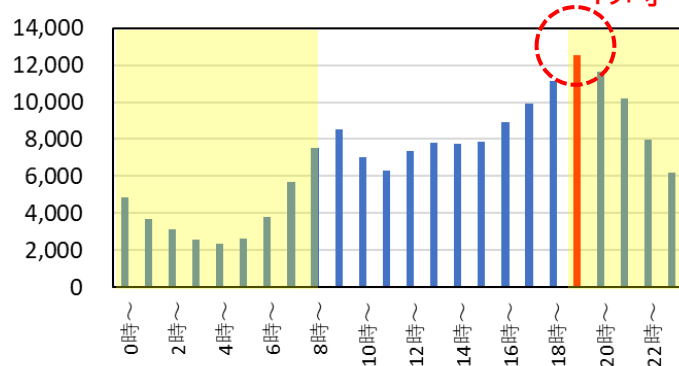
応答率：98.1%

内訳	R7年度	R6年度 (参考)
救急医療相談※	75,975	41,393
医療機関案内	72,753	48,971
その他	18,692	12,945
合計	167,420	103,309

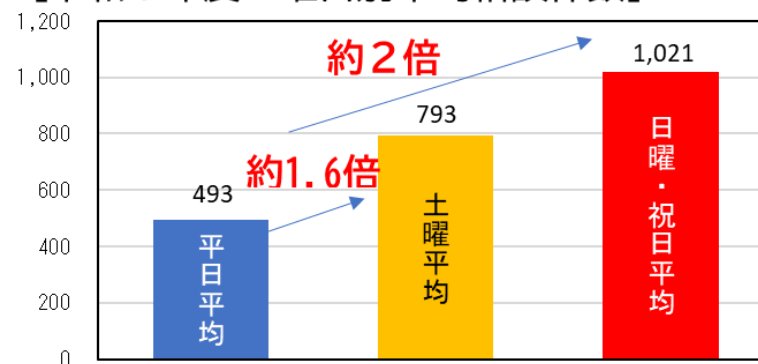
② 夜間・休日の相談需要に対応し、県民への安心の提供

19時台をピークに**医療機関の休診時間帯**で相談件数は増加。休診日となる土曜で平日の約1.6倍、日曜・祝日で約2倍。

[令和7年度 時間帯別相談件数]



[令和7年度 曜日別平均相談件数]



3. 不急の救急出動の抑制

救急医療相談7万5,975件のうち**救急出動要請とならなかった相談が約88%の6万6,484件。**

[救急医療相談の内訳（件）]

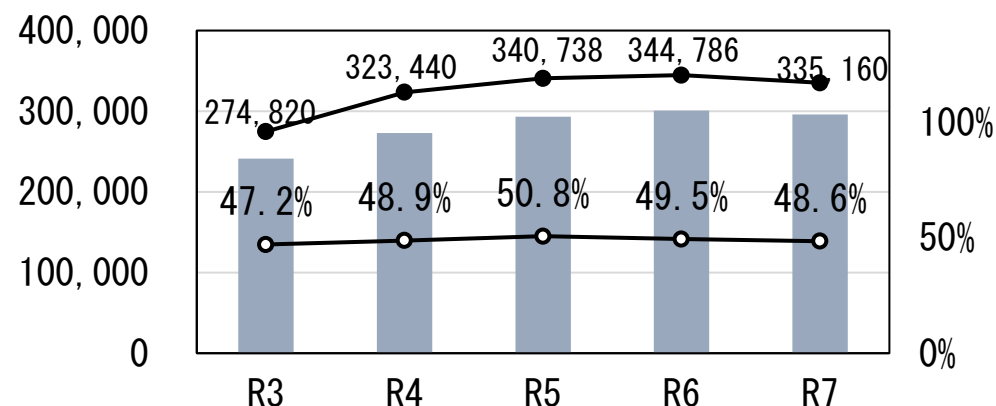
内訳	R 7 年度
救急出動要請	9,491
救急出動要請以外	66,484
計	75,975

<参考> 救急出動件数及び軽症者割合の減少

令和7年の救急出動件数は、前年より**9,626件減**(34万4,786件⇒33万5,160件)、救急搬送人数の**軽症者割合は0.9%減**(49.5%⇒48.6%)。

[年間(1～12月) 救急出動件数、軽症者割合の経年変化]

■ 搬送人数(人) ● 出動件数(件) ○ 軽症者割合(%)

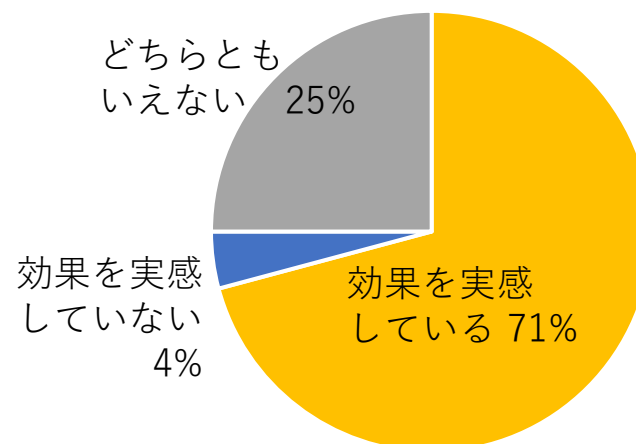


* 減少要因として # 7119が、どの程度寄与しているかは経年分析が必要。

4. 消防本部の業務の効率化

県内24消防本部を対象にしたアンケートでは、**17消防本部（71%）が「消防本部における相談件数の抑制効果」を実感**していると回答。

[消防本部における相談件数の抑制]



【県民のみなさまへ】

- 救急車を呼ぶべきか判断に迷ったら、
まずは **# 7119**にご相談ください
- 緊急を要すると思ったら、
迷わず**119番**に電話してください

県民

- 病院に行くべき？
- 救急車呼ぶべき？
- 応急手当の方法？

「# 7119」
をダイヤル

救急安心センターひょうご

- 看護師、相談員等が対応
→病気、けがの症状把握
→緊急性判断
→適切な医療機関等助言

緊急性が
高い救急車出動
(潜在的な重傷者
発見)緊急性が
高くない必要に応じ受診
(不要不急な救急
抑制)